



小川小 道徳だより

第4号 平成26年12月25日発行

あいさつ運動を通して

12月は、校内でJRC委員会を中心に、「あいさつ運動」が行われました。代表委員会で決まったことを基に、6年生を中心に、朝、昇降口で元気なあいさつをするように呼びかけをしました。今まで以上に元気なあいさつが響き、気持ちの良い朝のスタートがきれました。下学年からも「ぼくたち、わたしたちもいっしょにやってみたい」という声も聞こえ、教室にも今まで以上に元気なあいさつが響きました。

朝のあいさつをはじめ、生活の中ではたくさんのあいさつがあります。あいさつは、人と人をつなぐ魔法の言葉です。道徳の時間では、道徳だより第3号でもお知らせしたように、「主として他の人とのかかわりに関すること」（礼儀）として資料の中で扱われています。「あいさつ」は自分で言ったつもりでも、相手に伝わらなければ意味がありません。声の大きさ、目線、表情など、相手に伝えるために大切なこともたくさんあります。

冬休みは、家庭であいさつを交わす場面も多くなります。ぜひ、あいさつ運動で広まった「元気なあいさつ」「心のこもったあいさつ」をご家庭でも実践してみてください。



おはよう

こんにちは

こんばんは



ありがとう

いただきます

ごちそうさま

あけましておめでとうございます

おじゃまします

おやすみなさい ごめんなさい

おじゃましました

など



ぜひ、冬休み中にご家庭で交わしたあいさつの中で、心に残るエピソードがありましたら、道徳だよりに掲載したいと思いますので、学校までお知らせください。